

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570800203
法人名	医療法人 暁星会
事業所名	グループホーム並木
所在地	宮崎県西都市大字下三財8124番地8 (電話) (0983) 44-6229
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 7月 6日

## 【情報提供票より】(21年 6月15日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.5人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要( 6月15日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89.7歳	最低	75歳	最高	97歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三財病院 ・ 相澤歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは西都市西方郊外の緑豊かな場所にあり、企業が拓かれ、畑や田園と民家が点在している。ホームは母体に老人保健施設、訪問介護や支援センター等を併設し、法人一体となった医療ケアと日常生活両面の支援に取り組んでいる。管理者・職員は「入居者が自分らしく安心してゆったりと暮らせるホーム」「地域にとけこみつながりを大切にするホーム」の理念を踏まえて、一人ひとりに笑顔で向き合おうとしており、その人に合わせた柔軟な支援をしている。

## つながりを大切にする

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘のあった地域住民との交流や終末期のあり方等については、全職員で協議し、改善へ向け検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に職員全員で取り組み、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、幅広い立場の人が参加して、外部評価の結果についての報告や災害時の対応について活発な話し合いを行いサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族代表が出席し、質問や意見、不満等を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。また、年3回家族会を実施し、食事会や外出など必ず家族の方へ呼びかけをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域に住む人が少なく、交流が難しい。日用品や食材の購入は地域商店街などを利用者と共に積極的に利用している。同法人と連携した夏祭りへの参加や保育園との交流はあるが、ホーム独自の交流はない。「広報」を発行し、このホームのPRで地域の人たちが足を運んでもらえる取り組みを計画中である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは、利用者がこの地域で生活を継続するために、「入居者が自分らしく安心してゆったりと暮らせるホーム」「地域にとけこみ つながりを大切にするホーム」として項目を解りやすく掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	言葉かけ、態度、記録など日々のケアにおいて理念が実践の中に活かされている。ミーティングの時など定期的に自己のケアをふりかえり、理念を深めるような話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	食材や日用品の購入は積極的に地域商店街を利用し、地域の一員として顔見知りとなり連携に努めている。自治会や地域活動などの地域との交流はできていない。「広報」を発行し、ホームのPRで地域の人々がホームに足を運んでもらえる取り組みを計画中である。		自治会や地域の行事等の地域活動の参加で、地元の人々との交流がはかれるよう取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、サービスの質の向上に努めている。また、外部評価の結果について職員会議で全員に報告され、改善点についての話し合いを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回実施し、市担当者、地域包括支援センター、区長、消防団、警察、公民館長、民生委員、家族代表等幅広い立場の人が参加し、報告や話し合いを行っている。非常時の対応について前向きな話がある等サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の疑問点など積極的に市へ相談する等、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態、金銭管理等についてきめ細かに伝えている。また、必要に応じて電話でも報告している。利用者の状況を担当者が手書きで記し、家族との連携を蜜にしたいという計画もある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回家族会を開催している。食事会や外出時には必ず呼びかけをして、意見等言える環境づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内の職員の配置換えは行われているが、管理者の異動は極力避けて、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回全体ミーティング、法人内の研究発表が年4回と研修会が年2回あり、法人外の研修にも積極的に参加している。	○	外部研修についても、全職員にその情報が伝達され、ケアの質の向上につながる取り組みにつなげてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他のホームとの研修会があり情報交換をしている。また、親睦会での交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホームの見学に来てもらい、利用者が職員やサービスの場に徐々に馴染めるよう支援している。入居後は家族にこまめに状況を伝え、必要に応じて昼間の外出や面会などができるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考え方を職員は共有しており、昔ながらの慣わし、方言などを教えてもらう場面が多く、共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中から、利用者の暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、家族を交えての話し合いも行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行っている。利用者、家族も参加し本人の希望を第一に捕らえた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回ミーティング時に話し合い、状態に変化がある場合にはケースカンファレンスを実施し、経過を見ている。本人、家族の意見も取り入れながら3か月に1回、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ベットの空きが有る場合には、ショートステイの利用ができる。外出や帰宅したい利用者は車で自宅に送り、家族と話すなど柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としているが、ほとんどの利用者が協力病院をかかりつけ医としており、気軽に安心して相談できる関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、本人、家族と話し合い、方針を共有している。現在、最後の看取りまでは行っていないが、状態が悪化した場合は、医療機関との連携が取れるよう配慮している。		職員には、利用者とともに過ごしてきたこれまでの生活にそって、その人らしい最期まで支援したいという希望がある。家族との相談を含め、体制づくりなど今後の検討をすすめてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを大切に、自尊心やプライバシーを傷つけないよう配慮した言葉かけや対応ができるよう取り組んでいる。個人情報の取り扱いにも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを尊重し、寄り添う柔軟な対応に配慮している。本人の思いに応えられる支援を常に心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食卓を囲み、同じものを食べている。食事は和やかな雰囲気、さりげないサポートをしている。食事の後片付けなどは利用者の力を活かしながら、職員も一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調やその日の気分に合わせて、週2回その人に合った入浴支援を実施している。		利用者の重度化が進んでいるが、入浴を楽しめるよう、回数や曜日など利用者の希望を引き出しながら支援を工夫してほしい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族から生活状況を聞き、洗濯物たたみや食事の準備など一人ひとりの力を引き出していく支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望のある方や日中外に出られる方については家族の確認を得て、家へ連れて帰ってお話したり、買い物に出かける機会を作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関、居室の窓など、すべての鍵を開錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市消防署の協力を得て、法人全体で防災訓練を年2回実施している。避難ルートの確認、対応など確認する事項や消火訓練などを実施している。		運営推進会議として市の消防署の協力があるが、地域消防団の協力も得られるよう検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量は毎日管理しており、法人の栄養士の指導も受け、バランスの良い食事の内容となっている。		水分摂取についても、摂取量などの記録を工夫して情報を共有し、必要な支援ができるようにしてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は自然光がやさしく照らし、空気のよどみはない。季節の花が飾られ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのダンスや家族の写真などが持ち込まれ、各部屋に洗面台が設置される等居心地よく暮らせるように工夫されている。		